

第175回 上級 工業簿記①

問1

 と

 によって構成される。各④

問2 第1工程費予定配賦率

 円／時間 ④

第2工程費予定配賦率

 円／時間 ④

問3

(単位：円)

借 方		貸 方	
第1工程X製品	598,560	第1工程費	1,357,200
第1工程Y製品	758,640		

⑧

問4

第2工程費

② 諸口	(1,200,000)	(第2工程X製品)	(629,120)	②
② (動力部)	(151,740)	(第2工程Y製品)	(865,040)	②
② (工場管理部)	(160,400)	(第2工程費配賦差額)	(17,980)	②
()	()	()	()	
	(1,512,140)		(1,512,140)	

全ての()に記入が必要というわけではない。

問5 第1工程費配賦差額

 円 (貸方) 差異

予算差異

 円 (貸方) 差異 ④

操業度差異

 円 (借方) 差異 ④

問6

 と

 に分類することが必要 両方正解で④

問7

 部 ④

理由：

 は

 だが、

 が

 ため。全体で④

問8 第1工程X製品正常仕損品原価

 円

内訳： 直接材料費

 円 ④

加工費

 円 ④

○数字は予想配点

第175回 上級 工業簿記②

問9

(単位：円)

借 方		貸 方	
第 2 工 程 × 製 品	2,360,288	第 1 工 程 × 製 品	2,360,288 ⑩

問10 第2工程X製品正常仕損品原価 円 ④

問11

(単位：円)

借 方		貸 方	
製 品	3,539,120	第 2 工 程 × 製 品	3,539,120 ⑩

問12 第1工程X製品月末仕掛品原価 円 ⑧

問13 を 良品に負担させるところ

全体で④

○数字は予想配点

第175回 上級 原価計算①

問題 1

設問 1

- 問 1 1セットの貢献利益 円 ⑥
- 問 2 損益分岐点販売量 A製品 個 ④
B製品 個 ④
- 問 3 損益分岐点売上高 円 ⑥
- 問 4 安全余裕率 % ⑥
- 問 5 営業レバレッジ度 ⑥
- 問 6 売上高営業利益率 % ⑥

設問 2

- 問 1 営業利益が最大となる販売量 A製品 個 ⑤
B製品 個 ⑤
- 問 2 営業利益が最大となる場合の各製品の貢献利益 A製品 円 ④
B製品 円 ④
- 問 3 営業レバレッジ度 ⑥
- 問 4 営業利益が最大となる場合の売上高営業利益率 % ⑥

○数字は予想配点

第175回 上級 原価計算②

問題2

	○または×	×の場合、その理由	
1	○		③
2	○		③
3	×	市場占有率差異は1,025,150円（不利）である。	⑤
4	×	加重平均資本コスト率は3.6%となる。	⑤
5	○		③
6	×	プロダクト・アウト志向ではなく、マーケット・イン志向である。	⑤
7	×	製品勘定は設けられることもある。	⑤
8	○		③

○数字は予想配点